

社会経済活力創出対策特別委員会記録

<p>1 会議の日時</p>	<p>令和 6年 3月12日</p> <p>開 会 午前 9時 57分</p> <p>閉 会 午前 10時 28分</p>	
<p>2 会議の場所</p>	<p>第4委員会室</p>	
<p>3 出席者</p>	<p>委 員</p>	<p>委員長 岩井 豊太郎 副委員長 水野 正敏</p> <p>伊藤 正博 渡辺 嘉山 平岩 正光</p> <p>国枝 慎太郎 酒向 薫 若井 敦子</p> <p>恩田 佳幸 今井 政嘉 平野 祐也</p>
	<p>執 行 部</p>	<p>別紙配席図のとおり</p>
<p>4 事務局職員</p>	<p>課長補佐兼係長 榎田 朝之 主査 水野 恵</p>	

5 会議に付した案件	
件名	審査の結果
1 令和5年度中間報告について	原案のとおり決定
2 その他	

6 議事録（要点筆記）

○岩井豊太郎委員長

ただいまから、社会経済活力創出対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、本委員会の「令和5年度中間報告」について協議するため、開催したものである。

それでは、本委員会の「令和5年度中間報告」について協議を行う。中間報告案については配付してあるとおりであり、書記に朗読させる。

（書記朗読）

○岩井豊太郎委員長

この中間報告案について、意見等はあるか。

（意見なし）

○岩井豊太郎委員長

意見もないようなので、本文案のとおり決定したいと思うが異議はあるか。

（「異議なし」の声あり）

○岩井豊太郎委員長

異議もないようなので、そのように決定する。

議題については以上であるが、せつかくの機会なので、各委員から、今年度の参考人招致、視察の感想や、来年度の調査内容の希望などあれば、順次お聞きしたい。

○平野祐也委員

いろいろ視察し、様々な知見を深められた1年間であった。来年度は国際交流の観点で、世界に視野を広げた視察を考えてほしい。

○岩井豊太郎委員長

視察先に関しては事務局とも検討し、多くの候補の中から決定したが、委員からも提案してもらえると幅広く意向が反映できると考える。希望があれば早めにお聞きしたい。

○恩田佳幸委員

中間報告1ページ目、2行目から3行目の「新たな社会情勢を踏まえた社会経済対策」は、避けては通れない。海外に買い負けする今の国際情勢で、生産性の向上やDXの推進はどんどんやっけていかないといけない。また、そうした先進的な事例等を、視察や参考人招致から勉強したい。

委員会の取組を通じて、「岐阜県経済・雇用再生戦略」ともコミットしながら、より一層の経済発展であるとか、国内の市場は縮小していくと思われる中で、岐阜の良い商品や産業を海外により一層提案できるような委員会になると有難い。

○岩井豊太郎委員長

この委員会では常任委員会と重ならないよう、特別委員会ならではの視察をしたいと思っている。

○酒向薫委員

現場主義という形は、一番身になると思う。「作り上手の売り下手」という言葉があるが、これを回避していかなければならない。働き手がいらないということは、経済が縮小することになるため、DXや生成AIを活用した産業を構築していくことが大事である。

また、今後は「販路」ということを考えていかないと、いくら作っても物が売れないのは問題であるため、国外も見据えたテーマを検証するとよいと思う。

○平岩正光委員

県経済が発展していくときに、いろいろなところへ光を当て、我々も問題意識を共有していくというのは大きなテーマで、この委員会の持つ役割というのは非常に大きなものだと思っている。執行部には、多くの課題をしっかりと捉え、それぞれの部署の中で取り組んでもらっており、力強い限り。我々も問題

意識をもって、執行部と連携をとって県政に反映できるような取組をしていきたいと思う。

産業とともに、芸術や文化、生きる力、人間の感性といったものが、地域の掘り起こしとともに非常に重要な部分であると思うため、そちらもしっかりと捉えながら学べたらと思う。

○伊藤正博委員

参考人として、各務原市の岩戸工業株式会社の社長を招致し、航空技術を生かしたキャンピングトレーラーの開発状況の説明を受けた。コロナ禍で飛行機関連の仕事が減った中で、社員のモチベーションを保つことなどを目的にこういった事業に取り組みましたが、試作は行ったものの、事業として成り立つかということ、正直難しいことがあると伺っている。

航空機産業は、現状、仕事はあるが人がいないため、スケジュールに遅れが出ていると聞いている。特にものづくりで働く人たちが減ってきている中で、DXを含めたIT化や自動化をどう進めるかということが大きな課題だと思う。ものづくり産業が岐阜県でしっかりと定着するよう、また成長産業が未来に向けて発展できるように、引き続き努力してほしい。

○今井政嘉委員

中間報告1 ページ目、5行目の「商工業・観光・農林畜水産事業者への支援」について、視察先の滋賀県の工場では、電力を100%再生可能エネルギーで賄っているが、費用がかかりすぎるということであった。

あらゆる産業でエネルギーは必要なことから、いかに効率の良いエネルギーを県や国の施策で生み出せるかを、今後も研究していきたいと考えている。

○若井敦子委員

スタートアップ企業の創出に始まり、航空宇宙産業の技術を生かした事業や、100%再生可能エネルギーを利用した施設等、世界に挑戦していくチャレンジ精神が未来を創っていくのだと学んだ。

この委員会で、まさに本県の活力を創出できるような来年1年間にしていきたいと思う。

○国枝慎太郎委員

北九州市の学術研究都市を視察し、岐阜県としても、岐阜大学を含め、もっと稼ぐ大学になっていくべきではないかと思う。また、理系の学生に、いかに大学に通いながら企業とタイアップした研究を進めてもらうかということで、人材を確保していく取組も今後は必要ではないかと改めて思ったところ。

全産業担い手不足ということで、今後活力を生み出すための人材の確保について、高校生のみを対象とするのではなく、高校受験で受験生が岐阜県から離れているため、（県外へ流出しないような）魅力を作っていくことが必要だと思っている。

○渡辺嘉山委員

九州で、バイオコミュニティやロボット、工作所を視察し、行政のやらなければいけないことや、中小企業の製造業だってまだまだやれるぞ、というのを見ることができた。

○水野正敏副委員長

岐阜県は、数字だけで言うと、東海4県や中部7県で県民所得が一番低いというような状況で、原因や解決策が具体的なものになってこないが、目標をはっきりさせて、県民所得を少しでも上げていくという1点に絞りながら政策を打っていくことが、岐阜県の魅力向上につながっていくのではないかと感じた。

○岩井豊太郎委員長

（委員会の）名前にふさわしい委員会の活動をしなければということで、現場主義で今年1年終わったところ。執行部も一緒になって取り組んでいかなければならないが、我々も議員として視察させてもらったことをどう県政へ生かしていくかが、一番大事だと思っている。

執行部も時間が許せば、視察に同行し、県政へ生かしてもらえたらと思っている。

○三木商工労働部長

本日の委員会でも大変参考となる意見をいただき、今後に生かしていきたいと思う。

今の経済は株価が史上最高値を更新し「良い」と言われているが、報道でも景気回復の実感がないという方が8割、物価高騰を超える賃上げが期待できないという方が8割くらいいるとのことであった。

来年度以降も、この活力を創出していくための施策は大事だと思っており、商工、農林水産、観光といった産業の側面から、あるいは文化、環境といった側面からも、取組をしっかりとやっていきたいと思う。我々も現場の声が一番大事だと考えており、委員会の中でいろいろな方の意見をいただけるというのは有難く、また様々視察いただいた委員から意見をいただくというのも、非常に貴重だと思っている。

7月の参考人招致で、岐阜大学の准教授や、岩戸工業株式会社の方からスタートアップの問題点や、新産業に進出していくときにどういったことが課題になっているかという点等を説明いただいたことは、非常に参考になり、施策に生かすことができたと考えている。

今後も、視察の機会があればぜひ同行したいと思っている。また、委員からも執行部へ意見をいただければ有難い。

○岩井豊太郎委員長

来年度もこの委員会をさらに深掘りして、委員が満足できる活動ができるとよいと思う。

これをもって、本日の委員会を閉会する。

社会経済活力創出対策特別委員会 配席図

令和6年3月12日

第4委員会室

